

OCHIS

流れ、これまで寄せられた質問をQ&Aで掲載。国土交通省が8月に全ト

【大阪】ヘルスケアネットワーク(OCHIS、武田裕理事長)は、今秋、睡眠時無呼吸症候群(SAS)対策事業10周年記念誌「運輸業界のためのSAS対策Q&A50」を作成した。

協などの関係団体に通知し、作本貞子副理事長が編集に携わった「SAS対策マニュアル改訂版」に盛り込まれなかった情報も載せ、内容を充実させた。2004年にSASの

実用的な記念誌をコンセプトに、事業者が参考にしやすいようSAS検査の具体的な



これまで寄せられた質問をQ&Aで掲載

SAS対策事業 10周年で記念誌

クリーニング検査をスタートしてから15年6月末までに7万1909人が受診。開始当初は、事業者から「検査で引っかけると仕事にならない」といった意見が聞かれ、対策の重要性を理解してもらえないケースが多かったという。

作本氏は「『事故を起こしたドライバーを検査したい』といった事業者は少なくない。しかし、SASのスクリーニング検査はあくまでも予防。事故が起きてからでは意味が無く、早めに受診することが大切。記念誌では検査について分かりやすく解説しているので、社内の安全対策や健康対策に役立てて欲しい」と話す。

しかし、SASが原因とされる重大事故が注目を集める中、社会的に検査の必要性を訴える声も高まり、「事業者の(SASに対する)認識が変わってきたと感じる」(作本氏)。

記念誌は千冊作成。9日に予定しているSAS対策事業10周年記念セミナーで参加者に進呈する。希望者には送料のみで無料配布する。

(上田理子)